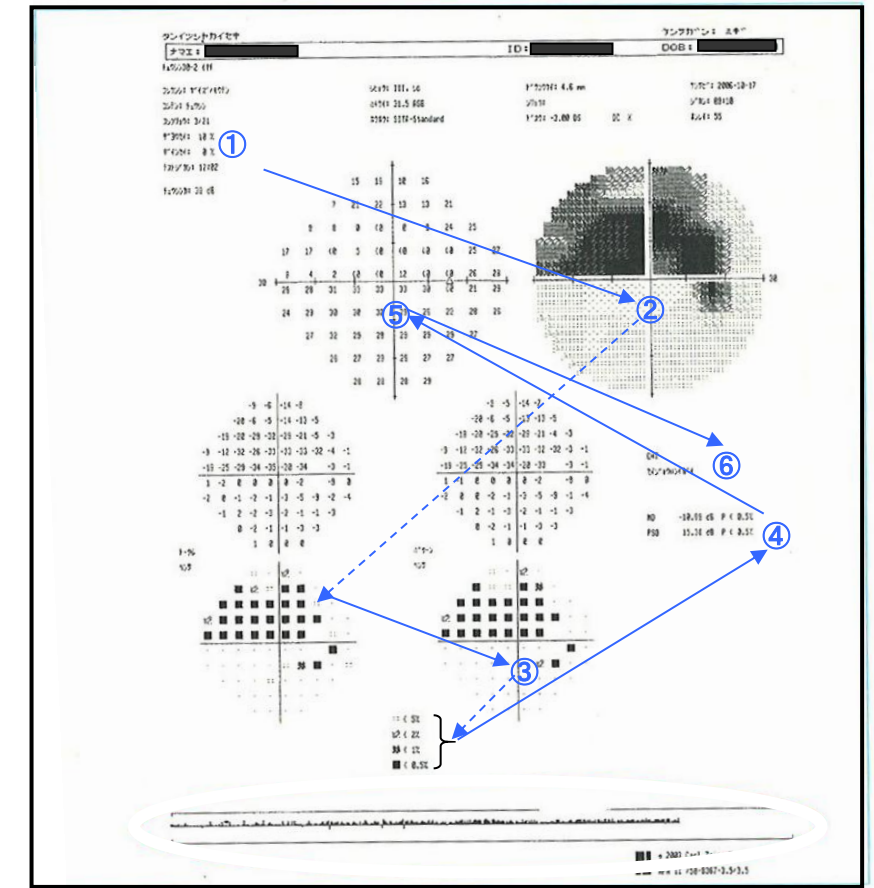


参考)大阪赤十字病院 柏井 聡先生の講習会・
根木昭編集:眼科プラクティス15視野



その他の判定基準) Aulhorn 分類 Greve 変法 プラクティス15 P117、124、129 Anderson 分類(以下・未満がページにより違う)

- | | | |
|-----------|--|--------------------|
| Stage 0~1 | : 6~10dB の感度の低下を示す比較暗点で、大きさが Mariotte 盲点を超えない | |
| Stage 1 | : 感度低下が 10dB を超える比較暗点または絶対暗点で、大きさが Mariotte 盲点を超えない | |
| Stage 2 | : 不完全な弓状絶対暗点 (Mariotte 盲点から鼻側水平線に連続しない) | |
| Stage 3 | : 完全な弓状絶対暗点 (Mariotte 盲点から鼻側水平経線に連続する), または鼻側穿破を伴う不完全な弓状暗点 | |
| Stage 4 | : 鼻側穿破を伴う完全な弓状絶対暗点で、大きさは 1 象限を超えない | |
| Stage 5 | : 鼻側穿破を伴う完全な弓状絶対暗点で、大きさは 1 象限を超える | |
| Stage 6 | : 黄斑部視野は消失するが、耳側視野が島状に残存する | |
| 初期 | 以下基準のすべてを満たす場合 | |
| | ・平均偏差 > -6dB | |
| | ・30-2 プログラムの 76 検査点のうち、トータル偏差確率プロットで $p < 5\%$ の点が 18 点より少ない | $p > 5\%$ が 25% 未満 |
| | ・30-2 プログラムの 76 検査点のうち、トータル偏差確率プロットで $p < 1\%$ の点が 10 点より少ない | |
| | ・中心 5° 以内に 15dB を超える感度低下を示す検査点がない (以下の) | |
| 中期 | 早期の 1 つ以上の基準を超えるが、末期の基準は満たさない場合 | |
| 後期 | 以下の基準のいずれかを満たす場合 | |
| | ・平均偏差 < -12dB | |
| | ・30-2 プログラムの 76 検査点のうち、トータル偏差確率プロットで $p < 5\%$ の点が 37 点を超える | $p > 5\%$ が 50% 以上 |
| | ・30-2 プログラムの 76 検査点のうち、トータル偏差確率プロットで $p < 1\%$ の点が 20 点を超える | |
| | ・中心 5° 以内に感度が 0dB の検査点がある | |
| | ・固視点から 5° 以内に 15dB を超える感度低下を示す検査点が上半視野にも下半視野にもある (未満の) | |